

第1回 伊豆市総合計画審議会議事録

- 開催日時** 平成27年11月5日（木）午後7時～9時
- 開催場所** 市役所本庁別館大会議室
- 出席委員** 青木喜代司委員、安藤孔治委員、植松真由美委員、梅原龍一委員、遠藤護委員、杉山羌央委員、仙座夏子委員、田足井みさ子委員、土屋光成委員、出川奈央委員、永岡正人委員、渡邊一夫委員【12名】
- 欠席委員** 遠藤正壽委員、小森泰信委員【2名】
- 伊豆市** 菊地市長、勝呂教育長、和智永総合政策部長、伊郷総務部長、鈴木市民部長、齋藤建設部長、植田会計管理者、森下教育部長
- 事務局** 佐藤総合戦略課長、井上主幹、杉本主査、杉山主査、下村主任、浅田副主任

1. 開会

2. 委嘱状交付

○菊地市長より委員各位へ委嘱状の交付が行われた。

3. 市長挨拶

4. 会長、副会長の選任

○事務局より、会長に杉山羌央委員、副会長に遠藤護委員を推薦する案が示され、全会一致で承認された。

5. 諮問

○菊地市長より会長へ諮問書が手渡された。

6. 議事

- (1) 第2次伊豆市総合計画の策定について
- (2) 策定の取組み状況と今後のスケジュールについて
- (3) 第2次伊豆市総合計画 基本構想（案）について

【質問・意見等】

- 委員) 商工会で現在問題となっているのは、後継者の問題であり、商工会員の実に4割以上で後継者がいないという状況にある。いくら良い計画を策定しても、予算がなければ施策・事業の実施ができない。また、経済を振興しないと資金は流入してこない。総花的な計画とするのではなく、ぜひ重点施策として経済の振興を謳って頂きたい。
- 委員) 行政は総花的に全てをカバーする必要があるかもしれないが、説明の中でも「選択と集中」という表現があった。しかし、現状として何を選択し集中するのか分からない。もう少し、その内容を強調するとともに、従来の住民が行政にやってもらうという意識ではなく、住民が行政を使うような意識が醸成されるとよいと考える。
- 委員) 目指すまちのテーマが素晴らしいと思うが、抽象的になってしまいがちである。具体的に市に多くの人に住んでもらい、たくさんの子どもを育て、よりよい教育をして頂く、最後はそのまちで仕事ができるように具体的な方法を考えていければと思う。
- 委員) どんなに立派な計画をつくっても、それが実践され、市民の協力を得て良い結果がでなければ何の意味もないと考える。ただ、作るだけなら簡単であるが、良い結果が出せるよう皆で力を合わせてやっていければと思う。
- 委員) 金沢より移住し、2年間住んでみて住みやすい環境だと感じているが、伊豆市には若い人が少ないというところが気になっている点である。20歳代の若い世代が減り、子ども達も減少しているなかで、総合計画の内容を皆で協議していければと思う。
- 委員) 現在、伊豆市では出生数が減少しており、主任児童委員として“赤ちゃん訪問”を行っているものの、出生数の増加につながらないということが悩みであり、どうしたら子どもが増えていくかが課題である。学校の統合については、実施されることで子ども達の生活圏が現在よりも広がるという問題点もある。子育てを中心に、いかに若い世代が子どもを育てやすい環境で生活できるかを考えていければと思う。また、個人的には、障害のある子どもがいることから、福祉の面で温かく見守ってもらえる伊豆市であってほしいと思っている。
- 委員) 非常になめらかな説明であったが、それゆえに頭に入っていないところもあった。今後ともよろしくお願ひしたい。
- 委員) 伊豆市で子どもの頃から育ってきた。大好きな土肥地区で、より安全で安心して子育てができる環境をつくるためにも、一市民として他の母親達の声を届けさせて頂きたい。
- 委員) 中山間地域の一市民として、この議論の場に参加させて頂く。現在、居住する地域の地域福祉の一環として、中山間地域のコミュニティづくりを実施しているところであり、市民のコミュニティをつくることは、今後非常に重要になってくるのではない

かと考えており、経験の中で協力できることがあれば嬉しく思う。また、土肥地区の特産品づくりも携わっており、地域の特産品を守り、育てることが非常に市にとっても大事だと思うため、そうした観点から貢献したい。土肥地区は伊豆市で唯一海を擁する地域であり、カーフェリーの発着場所や観光客の受け入れ窓口もあるなど、伊豆市の中で海はかけがえのない資源だと考える。また、そうした環境のなかで、地元子どもたちを対象に自然体験活動を指導し、青少年の健全育成にも役立っている。協議のなかで、そうしたお話もできればよいと思っている。

委員) 2年前より、下田市より移住してきたが、今後伊豆市への移住してくる人が増えればと願っている。デザイン関係の仕事をしているが、その関係で「ソトコト」という雑誌の編集長とお会いし、お話をうかがう機会があった。今、日本では都会に住む20～30歳の若い世代の移住の意向が高く、その移住先を探している状況にあるとのことである。伊豆市においても、移住に関する施策があることから、いかに移住を希望する人に情報を届けるか、仲介していくかということが大事となる。そうした橋渡しができれば移住者も今まで以上に増えると考えられる。自分の仕事を通じ、何かお役に立てることがあればと思い参加した。

副会長) 伊豆市に来て「この人によって人生が変わった」というまちにしてもらえれば、人口がどんなに少なくなろうとも、交流人口はどんどん増えてくると思う。委員の皆様一人ひとりが自分の強みを出してまちづくりに参加して頂ければと思う。また、私も自分の持てる力の範囲内で協力させて頂ければと思う。

会長) 貴重な意見を頂き、第1回の会議としては長時間にわたったが、次回からは委員の皆様一人ひとりが、“これについて検討してみよう”というテーマをひとつ持って頂ければなおさらありがたいと思う。

7. その他

○次回会議は12月4日（金）午後7時より同会場で開催予定。

8. 閉会

以上